倫理審査委員会承認番号　OJH-202249
2023年2月2日

Invasive intraductal papillary mucinous carcinoma(IPMC)に対する術後補助療法の有用性に関する後ろ向き観察研究について

1. 研究の対象

浸潤性膵管内乳頭粘液癌（invasive IPMC)の患者さんで、1996年1月1日から2018年12月31日までの期間中に手術による切除を受けられた方

2. 研究の目的・方法

通常型の膵臓癌では、手術で切除した後に再発予防を目的とした抗癌剤治療を行うこと（術後補助療法）で、膵臓癌患者さんの生存期間が延長することは既に証明されています。一方、浸潤性膵管内乳頭粘液癌（invasive IPMC）に対する術後補助療法の生存期間延長に関する有用性は証明されていません。
本研究は、浸潤性膵管内乳頭粘液癌（invasive IPMC）に対して、手術で切除した後に、術後補助療法を行うことで再発の頻度を低下させ、生存期間延長につながるかを検討することを目的としています。
本研究により、浸潤性膵管内乳頭粘液癌（invasive IPMC）に対する術後補助療法の生存期間延長に関する有用性を証明できれば、浸潤性膵管内乳頭粘液癌（invasive IPMC）患者さんの生存期間延長に大いに貢献できます。
また、この研究は日本膵臓学会のプロジェクトとして行います。中央研究機関は和歌山県立医科大学外科学第2講座で、当院を含め約30施設の日本の施設が参加します。

3. 研究に用いる資料・情報の種類

この研究で利用するデータは、性別、年齢、手術術式、病理診断、術後補助療法を受けられたかどうか、術後補助療法をうけられたかどうか、術後補助療法を受けられた場合の化学療法の種類、治療開始までの期間と治療期間、再発確認日、再発部位、最終診察日に関する情報です。
また、利用する情報からは患者さんを特定できる個人情報は削除します。研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

4.お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：
研究責任者：尾道市平原1丁目10－23 JA尾道総合病院
副院長・内科　花田　敬士
TEL：0848-22-8111　　FAX：0848-23-3214

〇この調査研究は特定企業・団体等からの支援を受けて行われるものではなく、利益相反状態にはありません。